



学校で自分のよさを磨く

学校長 村越 新

教師になってから、私はあることをずっと考えてきました。それは「なぜ学校は存在するのか」ということです。いくつか浮かび上がるものはありません。「学習」「集団生活」「規則」「協力」「自立」などなど。どれも学校の存在価値を語る上で欠かせない言葉だとは思いますが、ひと言で表現しようとする
と足りない気がしていました。



校長となった今、この問いの答えを求められたら自信を持って言えます。「**学校は、個々のよさを磨く場所である**」と。子供は自分のよさを磨くために学校に通っているのだと。その「よさ」は、学習や集団生活、当番の仕事、行事などで磨かれるのです。私たち教職員は、日々の教育活動をとおして、子供たちのよさを磨いてあげるのが職務なのです。よさは家庭や学校外の活動でも磨かれていると思いますが、最も磨ける場所は**学校**であると考えます。

このような考え方から、毎年、五月の講話朝会では「**よさを磨こう**」という話をしています。子供たちには、学校で磨きたい自分のよさを**書いてもらう**ことにしています。それを全校で応援できるように**掲示する**ことにしています。今年の朝会では、友達のよさも学び合いで発表してもらいました。「〇〇さんは、いつもニコニコしていていっしょに遊んでくれる優しい子」「〇〇さんは、私がうんていをしていると応援してくれる」「〇〇さんは、おもしろくてみんなを笑わせてくれる」などの発表を二年生がしていました。その場において、嬉しくなりました。

さわやかな五月。自分のよさを**認識**し、自らの**努力**と仲間との**協働**でぐんぐん**伸ばして**いってほしいです。

ブレーキに注意

自走する子を育てたい本校にとって、その走りを止めるブレーキが邪魔になることもあります。危険なことを避けるためのブレーキは育てていきたいところですが、成長の妨げになるブレーキ機能は弱めてあげたいものです。先日も、以下のようなブレーキはなくしていこうと職員で確認したところでした。

「(分からなくても)、資料や教科書を見たり、友達に聞いたりしてはいけない」

「習っていないことは、やってはいけない」

「やることが終わったら、黙って待っていなくてはいけない」 など

大人の規制によって、子供の主体性が伸びていかないことが多々あると思います。間違いや失敗を防ぎすぎたり、成功のお膳立てをし過ぎたりすることも、ブレーキ機能強化につながってしまいます。気をつけたいものです。

わんぱく相撲入間大会

今年も、6月8日にわんぱく相撲入間大会が入間市市民体育館で行われます。勝っても負けても大きな感動体験になり、市内の仲間も増える素敵なイベントです。体力向上にもつながります。

扇小学校は2年連続で総合3位の好成績を残しています。多くの子が出場しています。

今年もぜひ、たくさんの子に感動を味わってもらい、豊かな心育成につなげてもらいたいと願っています。

